

【10-2-7】 履修モデル（国際文化学部国際文化学科）

国際文化学科の養成する人材像に対応して、《グローバル文化展開科目》《日本アジア文化展開科目》に対応した履修モデルを提示しますが、これはあくまでモデルであって、学生のみなさんは、それぞれの興味・関心を中心に置きながら、系統的な学修を進めてください。

① グローバル文化モデル

広くグローバル文化を学修し、国際的視野に立つ企業や機関などで活躍する学生のために望ましいモデル

a) 想定される進路

一般企業、海外展開する国際企業、観光・航空・物流など国際コミュニケーション力を必要とする企業、行政機関など。

b) 履修モデルの考え方

グローバルな視野に立って多文化社会を理解し国際的な場で活躍するため、優れた外国語運用能力を備え、文化・歴史・社会・政治・経済などの広範な知識をもとに複雑な国際関係を理解するように構築されています。

c) 履修科目の概要

国際文化学部において、英語教育の根幹部分は必修科目として配当されています。1年次の学生は、《NGU 教養スタンダード科目》における必修の「基礎英語 1・2」「英会話 1・2」で基礎的な英語力を修得すると同時に、国際文化学科《学科基幹科目》における必修の「英語演習 1・2」を履修します。続いて2年次で「英語演習 3・4・5・6」（必修）を履修し、いっそう応用力を増した英語力を獲得することが目標です。同時に、本学科では第2外国語学習を選択必修とし、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」および「中国語」のいずれかについて、1年次から3年次まで10科目（10単位）を履修します。この他、さらに上級の英語能力を養う科目を多数配置し、選択することが可能です。

この履修モデルでは、《専門科目》の《グローバル文化展開科目》を中心に履修を進めます。グローバル文化社会の牽引力でもある「アメリカ社会文化論」「アメリカ政治経済論」を学ぶとともに、「ヨーロッパ地域文化論 A・B・C」など西洋文化に関わる科目を履修します。また、世界を構成する現代の文化圏について、地域的文化・宗教・生業などの多面的な視点から学ぶことで、グローバル社会の現状を広く理解できるように履修することになります。さらに、この目標のいっそうの充実のためには文化の成立・変容・地域化などを理論的に学習する科目の受講を推奨しています。

② 日本アジア文化モデル

激動し、国際力を強めるアジア地域を中心とした国際社会で活躍する学生のために望ましいモデル

a) 想定される進路

一般企業、アジアを中心に展開する国際企業、観光・航空・流通などの企業、行政機関など。

b) 履修モデルの考え方

広く我が国内外における多文化社会、多文化共生・協働を理解し、日本とアジアの関係を中心に学習を進め、アジアを中心とした国際社会への参画を志す人材のための教育プログラムを提示しています。

c) 履修科目の概要

英語および第2外国語に関する履修科目については、上記の「グローバル文化モデル」と同様です。この履修モデルでは、《日本アジア文化展開科目》を中心に履修を進めていきます。現在の青年層が学ぶ機会が少ないと思われる「日本文化史」「日本社会論」などをとおして、日本の歴史・文化・社会的特質・慣習・宗教などを多面的に学修することが推奨されています。併せて、アジア文化の中核ともいえる中国文化圏に関して「現代中国事情」「中国社会経済論」などを履修するとともに、アジア諸国の歴史と現状を学びます。これにより、アジア世界を客観的に見る目を養うとともに、日本とアジア地域との深い関係について、歴史を踏まえた上で現実の政治経済を理解することができるようになります。

◎学びの流れ

